

令和2年度「薬学に関心のある高校生の職場体験」実施報告

報告者：河原木 智

青森県からの委託事業である「薬剤師の人財創出」事業の一環で「薬学に関心のある高校生の職場体験」を昨年度同様8月に実施しました。

青森県は人口10万人あたりの薬剤師数が全都道府県中ワースト2位という薬剤師確保が難しい状況にあります。そこで、高校生を対象に、病院や薬局、医薬品卸、保健所等において現場で働く薬剤師の仕事を実際に見て体験してもらうことで、それぞれの業務を行う薬剤師の魅力を知ってもらうことを目的としています。

青森県全域で参加者を募り、今年度は5圏域（青森8/6、西北五8/11、三八8/11、上十三8/11、下北8/13）での開催となりました。昨年の44名を大きく上回る105名の参加者があり、コロナ禍という困難な状況や猛暑にもかかわらず、関係者各位の協力の元無事に事業を終えることができたことに感謝いたします。

詳細については各圏域の報告書をご覧ください。

薬学に関心のある高校生の職場体験について（青森地域）

報告者：近井 宏樹

令和2年8月6日（木）青森地区における薬学に関心のある高校生の職場体験が実施されました。参加者は青森市内高校生31名、弘前市内高校生6名計37名。午前中は、行政で働く薬剤師の内容を東地方保健所、医薬品卸で働く薬剤師の内容を東邦薬品青森営業所の担当者よりお話を聞きました。東邦薬品青森営業所では医薬品が実際保管されている倉庫の見学もあり興味深く話を聞いておりました。午後は、調剤薬局で働く薬剤師の内容を会営青森第一調剤薬局、病院で働く薬剤師の内容を青森県立中央病院にて実際の業務を体験しました。調剤薬局では、分包機を操作し医薬品の一包化、メスシリンダーを使い小児用シロップの調剤に挑戦しました。青森県立中央病院では分包機を操作し散剤の調剤、高額な抗癌剤などを目にするなど担当者の話をメモをとりながら熱心に聞き入っていました。終了時には職場体験修了証を授与され満足げな様子でした。参加された高校生の皆様お疲れさまでした。



薬学に関心のある高校生の職場体験について（西北五地域）

報告者：清水 康哉

去る令和2年8月11日（火）に西北五地域で実施致しました高校生の職場体験について報告致します。当日は猛暑の中、一人欠席・一人は午前で退席しましたが、計13名の生徒さん（内訳 弘前中央、弘前南木造、五所川原、五所川原第一）に参加して頂きました。最初、つがる総合病院では各20分程度調剤・注射調剤業務・化学療法服薬指導・感染管理・総論などの講義を受けました。午後は、五所川原保健所にて薬事行政・食品衛生・薬物乱用防止の講義を受けその後、2班に分かれてつがる調剤薬局・ひなた薬局にてカルピスを用い水剤調整・マーブルチョコレートを薬剤に見立て1包化・軟膏の混合など実技を行いました。皆一様に真剣に取り組んでくれたと思います。最後終了証を渡す前に地域包括ケアシステムに於ける薬剤師の役割、青大薬学部の奨学金、西北五地域で薬剤師不足の話をしたら資格を取得した際は、地元で働きたいと言う生徒さんもおられこの事業に携われた事に感謝したいと感じました。



薬学に関心のある高校生の職場体験について（三八地域）

報告者：前田 法晃

三八地域では 32 名の学生さんの参加を頂き、開催することができました。34℃の気温の中三戸地方保健所・八戸市立市民病院・会営休日夜間薬局・八戸東和薬品さんにお邪魔し、薬剤師の職能を見学させることができました。今まで高校生の中にあった表から見える薬剤師の仕事だけではなく、アンサンブルな内容にも理解してくれたことがこの活動を行い、薬剤師がどのようなことを求められながら仕事をしているのかを伝えることができたと思います。



薬学に関心のある高校生の職場体験について（上十三地域）

報告者：河原木 智

8月11日（火）に上十三地域の薬学に関心のある高校生の職場体験を開催しました。当日は猛暑の中、三本木高校生21名の参加者と共に高校に集合後、まずオリエンテーションを行いました。当日の資料、スケジュール、注意事項等の確認後、アンケート用紙を配布しました。

その後、上十三保健所へ行きA・B班の二班に分かれ見学した後、保健所の業務について講義をしていただきました。午後は十和田市立中央病院にて病院薬剤師についての講義の後、TDMや注射の手技等、実際の病院薬剤師の仕事について体験をしてもらいました。

そして、再びA・B班に分かれ、東邦薬品とひがし調剤薬局をそれぞれ見学、説明していただき、卸の薬剤師、薬局の薬剤師の仕事について講義をしていただきました。

最後に参加された生徒さん一人一人に修了証を授与し、アンケートを回収し終了となりました。猛暑の中、参加していただいた生徒さん、協力していただいた方々、本当にお疲れ様でした。そして有難うございました。お陰様で、地域の様々な所で薬剤師が関わっていることを学んでいただけたと思います。



薬学に関心のある高校生の職場体験について（むつ下北地域）

報告者：石山毅憲

今回は保健所、薬局、病院の流れで職場体験を行いました。

保健所では木村会長から地域包括ケアシステムについての話があり、薬が普段の生活にどう関わっているか、薬剤師が多職種とどのように関わっているか在宅医療の話を交えてご講演されていました。

また、今回は放射線測定器を実際見せてもらったり、災害時に使用する DHEAT の衣装を実際に着てみたり下北地域特有の体験ができたと思っています。

薬局では、調剤の一通りの流れを説明してもらい、お菓子を使用しての一包化、軟膏の混合、シロップの計量と1人に対して時間をかけて調剤の体験ができたと思います。

病院では薬局で行った調剤体験を再度行い、吸入指導の際に使用する見本を用いての体験、病棟業務の流れ、薬剤師が医師に疑義照会や処方提案をして、患者の命を救った事例等、薬剤師としてのやりがいを感じさせてくれるものでした。

高校生達の薬剤師になりたい気持ちが強く伝わり、私自身も日々の業務を見つめ直す貴重な体験となりました。

前年度と同様、お盆の時期に開催となり参加者が2名と去年より少なかったため、次年度は日程の調整が必要だと感じました。

